

新たなビジネス事例

印刷インバーション

出版ビジネスのデジタル改革例

デジタル化で出版の
サプライチェーンに革新もたらす
株式会社フォーネット社(東京都)

株式会社フォーネット社は、2002年5月に製本会社3社が統合して設立した会社で、長年「出版の製造・物流」を支えてきた。近年、出版のアナログ構造が限界を迎え、デジタル化が不可避になっている中で、いち早くRFIDタグの装着設備を導入した。RFIDタグによる持続可能な出版流通を目指し、また、顧客である出版社の製本印刷から物流、さらには業務のIT化、デジタルコンテンツ制作までトータルでデジタル化を支援し、製造業を通じて出版のサプライチェーンに革新をもたらしている。

株式会社フォーネット社は、グループ会社に製本事業を担っている永井製本株式会社、児童書の出版を行っている株式会社えほんの杜、漫画や単行本の出版ならびに編集プロダクションである株式会社ジータ、商品の検品や手作業によるパッケージング、アッセンブリ、発送業務を行うコスモ運輸株式会社の4社を保有して、それぞれの専門性や強みを活かして事業を展開している。

フォーネット社のビジョンは、製本技術を継承しつつ最新技術とクリエイティブな発想で、アナログとデジタル技術を融合させ、未来のコンテンツを支え、革新的なプラットフォームを創造することである。

高橋史幸社長は「弊社は製本業を通じて次世代へ引き継ぐ架け橋となることを使命としています。『出版の、その先のステージへ。』をミッションに掲げ、技術の進化と共に、お客様の多様なニーズに応えるために革新と品質を追求しています」と、経営理念について話す。

製本・印刷事業を展開している上尾工場では雑誌やコミックの製本を行っているが、モットーとしていることは、高い品質とスピーディな納品で顧客のサポートに努めることだという。

輸送会社と業務提携し物流力を向上させる

近年は、とりわけ物流基盤の強化に注力しているという高橋社長。従来はコスモ運輸が出版関連の輸送、倉庫管理、在庫管理を担って、フォーネット社の出版の物流面を支えていたが、2023年4月に主に一般貨物輸送を行っている株式会社森田産業運輸(本社:東京都足立区江北2-25-10、代表取締役社長 森田 浩史)と業務提携した。

「森田産業運輸さんは、強大な輸送力で新たな事業領域を開拓している会社です。これは弊社と共通する経



トラックの台数が増え輸送力が強化

最前線!

第3回

この連載では、既存の印刷製品の優良事例や非印刷領域における先端事例を紹介します。

「営理念ですから、業務提携によって出版業界の課題を解決するだけでなく、両社の経営資源を活用してシナジー効果を最大化し、サプライチェーン改革および持続的なビジネスモデルの構築を実現できるようにしています」(高橋社長)と、業務提携による効果に期待している。

「コスト削減1社だけでは輸送力に懸念があったため、輸送力を強化するために森田産業運輸と業務提携したというのが本音です。2社体制で120台ほどのトラックとドライバーを確保することができ、出版物の輸送を拡大できるようになりました」と、小倉専務取締役はドライバーの確保が重要だった点も指摘する。

製造面ではさらなる進化を目指して

製本事業の次のステージとして、同社では時代の流れに合わせて出版コンテンツやシステム構築による「出版×デジタル」戦略に積極的に取り組んでいる。

期待されているのが大手出版社と共同開発した世界初のコミック専用ラベラ一体型フィルムパックシステムである。このシステムは大手出版社から依頼を受け、同社が一貫して構築した。

「以前、大手出版社と話をしていた時に、本がむき出しのまま梱包するのは良くないとなって、パッケージングすることになったわけです。フィルムパックはさまざまな付録や販促物をスピーディに同梱できる機械なので、出版社の企画販売に貢献できています」(小倉専務)と、開発理由を述べる。

これにより、コミックだけでなく各種書籍まで対応可能となった。また、特筆すべきは、2023年8月に



フィルムパックにアクティベーション機器を導入

スタートしたコミックへのRFID(Radio Frequency Identification)タグ装着に合わせて、アクティベーション(商品を認証し有効化する)機器をフィルムパックシステム全ラインに導入したことである。

インライン上でRFIDタグ装着を実現する

「弊社のRFIDタグシステムは、インライン上で生産スピードを落とさずに、RFIDタグをコミックのフィルムパックに装着することで、本の情報を紐づけたシステムになっています。RFIDタグシステム自体は専門の会社が開発しており、そのシステムを弊社の製本ラインに搭載しています」(小倉専務)。

「市場にあるアクティベーション装置は単体機としては存在していますが、フィルムパックとアクティベーションを同時に実施できるシステムの開発は弊社が初めてです」(小倉専務)と、同社のRFIDシステムの優位性を強調する。

「以前は出版社の倉庫に戻ってきた本は、カバーの刷り直しや検品・改装作業を多くの人手で行っていました

新たなビジネス事例 印刷イノベーション最前線!

が、ムダが多いと感じていました。これらの作業を無くすことができれば相当効率化できると考え、最終のパッケージングまで自動化することにしたのです。これでコスト削減できて、出版社に付加価値を提供することが可能になりました」(高橋社長)と、第三者の視点からシステム開発に至ったと話す。



(株)フォーネット社のエントランス

■出版社のDXプラットフォーム企業へ進化

さらに、出版工程のデジタル化を推進する基盤として、同社はデジタル事業部を発足させ、出版社のDX改革を支える事業部としての役割を担っている。

各種システム開発や保守、マーケティング支援、Webサイト制作、Webシステムの構築・運用、コンサルティングなどの幅広い事業を出版業界中心にビジネスを広げている。まさに「製造・流通をデジタル化する」ための業務体制の再構築を担っているのがデジタル事業部というわけだ。

「以前、IT事業やWeb事業を展開していた関連会社を事業統合し、出版やエンターテインメント分野に特化するよう舵を切りました。今ではECやWebサイト制作、Webマーケティング支援など、これまで培ったノウハウを活かして、出版業界のデジタル関連ソリューションはもちろんのこと、他業界の案件も手掛けています」(小倉専務)と、デジタル事業部について説く。

また製造面では昨今デジタル印刷機の台頭で、製本工程の技術革新が問われている。「デジタルメディアが

普及しても、紙の出版物は絶対に必要だと考えています。そのため常にアンテナを張って、出版社は何をしたいのか、どのような課題があるのかを理解し、企画・提案していくよう業務に臨んでいます」(高橋社長)と、あくまでも紙の出版文化を担う一翼であることを強調する。

一方で「デジタル小ロットコンテンツが主流になってきている現在、最適なシステムを開発し提供することで他社と差別化を図り、お客様が必要とする環境を提供していきたい」(高橋社長)と、システム開発には余念がない。

今後は必要な小ロットを短納期で生産し届ける仕組みづくり、在庫コスト・返品の削減等が出版業界の課題であるが、同社は物流・製造・販売にわたってシームレスにデータを連動させて、「必要な本を、必要なタイミングで、必要な場所に届ける仕組みを構築する」「出版社だけでなく、書店、取次、印刷会社など全体に波及する変革の担い手になる」点を掲げている。これをサステナビリティ経営の下で出版社の事業に貢献していくという。

最後に高橋社長は「グループ会社の横のつながりを強化・連携し、物流事業とデジタル事業を発展させ、デジタル化という大きな流れの中で新たな挑戦に挑み、出版産業をアップデータしていきたいです。そして、デジタル技術で出版サプライチェーンを変える企業になります」と、意思を述べた。

株式会社フォーネット社

所在地：東京都文京区音羽2-4-2ノーブル音羽301

代表者：代表取締役社長 高橋 史幸

創業：2002年

URL：<https://www.fournetsha.co.jp>